交流活動（1）

おおつ環境フォーラム・おおつ市民環境塾
―「龍谷の森」市民観察会、「龍谷の森」落ち葉かき、落ち葉堆肥作り報告―

江南　和幸

2001年大津市地球環境保全地域行動計画（「アジェンダ21おおつ」）の策定を受けて、大津市民、市民団体、事業者、同団体、行政機関（大津市環境部）が参加して、大津市の環境問題に市民自らが積極的に取り組み、行政がこれを支援するユニークな組織として、おおつ環境フォーラムが結成されている。

筆者は2008年6月、前代表の竺文彦龍谷大学教授のあとを受けて代表に就任したが、それまでは研究協力者として当里山ORCの活動にかかわってきた経緯から、最初に「おおつ環境フォーラム」と当里山ORCとの関係を簡単に述べさせていただくことにする。龍谷大学「里山学・地域共生学オープン・リサーチ・センター」は、その発足当時から、同フォーラムと密接な連携をもち、特にフォーラムに所属する市民団体のひとつである、「里山保全」グループ（代表：中原真二氏）からは、龍谷の森の保全活動について骨身を惜しまぬ支援を受けて、龍谷大学学生の環境教育、里山ORCの研究活動が大きく進展していることをまず特記しなければならない。

2008年度、おおつ環境フォーラムは大津市制110周年記念大津市新パワーアップ・活動支援事業として、「おおつ市民環境塾」を計画するにあたって、協力団体として「龍谷大学里山学・地域共生学オープン・リサーチ・センター」が加わったのは以上の経緯からである。

市民環境塾は、2008年10月18日を開講日として、以後前期7件10回の講座、後期10件10回の講座を開催し、フォーラム会員以外300人を含む、のべ400人を超す市民が参加するフォーラム結成以来最も大きな事業となった。

ここでは、以下にフォーラム傘下のグループである前記「里山保全」グループが、「龍谷の森」に於いて、里山ORCとともに開催した2件の「環境塾」の様子を簡単に紹介す

る。

1）「龍谷の森」市民観察会　2008年10月26日

龍谷大学瀬田キャンパス　「龍谷の森」、参加応募者29名＋スタッフ6名

午前10時～午後3時。小雨の中を決行。

龍谷大学瀬田キャンパスに38ヘクタールの里山雑木林が広がることは、里山ORCメンバー、「龍谷の森」里山保全の会メンバーには当たり前の知識であるが、大津市民の間では、環境に関心のある人々にも意外と知られていないことが改めて認識される一日であった。参加応募者のうち半数以上は、「龍谷の森」に初めて入る人であった。

この時期例年ならば、沢山の里山のキノコが迎えてくれる季節であるが、あいにく、夏の猛暑にキノコの発生が少なく、豊かな「龍谷の森」の恵を観察する機会が少し減ってしまったが、それでも初めて森に入る参加者には、珍しいものばかりで、とくに夏の猛暑にかかわらず、元気に顔を出した毒キノコ、中でも猛毒のドクツルタケ、フクロツルタケなどをじっくり観察する機会を得ることができたのは何よりであった。もちろん数は少ないものの食用キノコも幾種類か見つかり、生える場所、食べ方を勉強するまたとない機会となったようだ。

中原さんと里山ORCの林さんの案内で、伐採実験区の観察と説明に、伐採後1年で早くも「ひこばえ」を沢山生じながら復活する「雑木林」の生命力に改めて、日本の



写真1　おおつ市民環境塾「龍谷の森」市民観察会にて。伐採実験区の観察（2008年10月26日）写真1は、フォーラムスタッフ市吉登美一氏による。

里山保全のもつ意味を理解した有意義な一日であった。写真1参照。

2)「龍谷の森」落ち葉かき、落ち葉堆肥つくり　2009年1月17日

龍谷大学瀬田キャンパス、「龍谷の森」落ち葉堆肥作り場、　参加応募者20名＋スタッフ2名、龍谷大学から2名、「龍谷の森」里山保全の会から8名

午前10時～午後3時

「里山保全」グループが、里山ORCの指導を受けて「龍谷の森」に堆積するコナラ落ち葉を集めて、堆肥作りをする現場にて、落ち葉を集める落ち葉かき、前年の落ち葉堆肥の掘り出し、新しい落ち葉の埋め戻しについて説明を受けたのち作業開始、写真2。

上記の参加者の他、当日午前中龍谷大学で行われた大津市主催の「団塊世代まちづくりパワー」講座の参加者約15名が後半加わり、最後は総勢40名を超す賑やかな集まりとなった。

掘り出された堆肥は、例年のように、作業参加者の中の希望者には無料で持ち帰ってもらった。なお、「里山保全」グループの落ち葉堆肥の中からカブト虫の幼虫が103匹（うちオス38、メス65）も出現し、一緒に参加した子どもたちは大喜びであった。数匹ずつを希望者にえさとなる堆肥とともに持ち帰ってもらった。里山ORCの2008年秋の例年の堆肥穴のカブト虫幼虫の数に比べ、単位体積当たりにす



写真2　おおつ市民環境塾「龍谷の森」落ち葉かきの参加者（2009年1月17日）



写真3　同　堆肥の中から嬉しい贈り物：カブト虫の幼虫。
指導するのは里山ORCスタッフ谷垣岳人さん。写真2,3はフォーラムスタッフ西澤勝氏による。

ればいくらか多い数であったように思われる。古い堆肥穴より、新しい堆肥穴の方をかえって好むのかもしれない、写真3参照 。

また、里山ORCと「龍谷の森」里山保全の会が管理している「シイタケ栽培場」の現地で、京都菌類研究所の山中勝次所長より、シイタケ栽培の意義と、実際の講義を受けシイタケ栽培に参加する希望者も出現したことを付け加えよう。